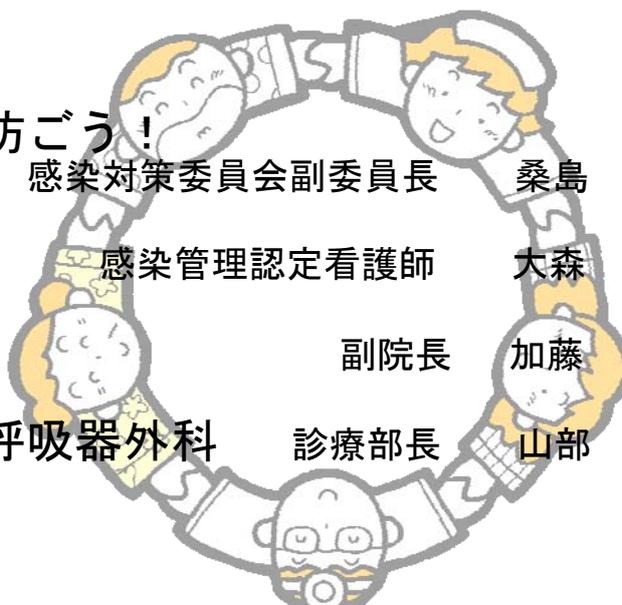


ほほえみ

桐生厚生総合病院

(編集 院外広報編集委員会)

〒376-0024 群馬県桐生市織姫町6番3号
電話番号 0277-44-7171(代) FAX 0277-44-7170
URL <http://www.kosei-hospital.kiryu.gunma.jp/>

- 
- ◇ 新型インフルエンザを防ごう!
感染対策委員会副委員長 桑島 信
 - ◇ 認定看護師の活躍
感染管理認定看護師 大森 優子
 - ◇ 乳腺外来を始めました
副院長 加藤 健司
 - ◇ 診療科の紹介 (11) 呼吸器外科
診療部長 山部 克己
 - ◇ 外来診療担当医表

《基本理念》

向学心と優しさに満ちた医療

《基本方針》

1. 私たちは、患者さんの人権を守り、患者さん中心の安全で優しさに満ちた医療を行うよう努めます。
2. 私たちは、日々研鑽し、患者さんに良質で高度の医療技術と医療サービスを提供するよう努めます。
3. 私たちは、地域中核病院として、他の医療機関との連携を推進し、地域医療のニーズに応えるよう努めます。
4. 私たちは、地域に密着した医療を提供し、地域住民の厚い信頼を得るよう努めます。

《患者さんの権利》

1. ひとりの人間として尊重され、安全で良質な医療を公平に受けることができます。
2. 治療内容、症状、経過などについて、わかりやすい言葉で納得できるまで説明を受けることができます。
3. 十分な情報提供に基づき、自らの自由意思で医療を選択し、決定することができます。
4. プライバシーが尊重され、診療上得られた個人の情報が保護されるすることができます。
5. 他の医師あるいは他の医療機関の意見（セカンドオピニオン）を聞くことができます。
6. 医療記録の開示を受けることができます。

《患者さんの責務》

1. 医師及び医療チームに対して、自らの情報を正確に伝え、適切な医療の実現に参加してください。
2. 院内では、他の方の権利を侵害せず、ルールをお守りください。
3. 研修医・看護学生など、これからの医療従事者の教育実習・研修を実施していますので、ご協力ください。



新型インフルエンザを防ごう！

感染対策委員会副委員長

くわしま まこと
桑島 信

新型インフルエンザ（A/H1N1）が全国的に流行しています。桐生地域でも患者さんが発生しています。どんな病気なのか、対策はどうか、まとめてみました。

★ 新型インフルエンザにかかるとどんな症状がでるのですか？

神戸、大阪の流行では、熱、咳、だるさ、のどの痛み、ふしぶしや筋肉が痛い、鼻水・鼻づまり、頭痛などの症状があったそうです。これらは普通のインフルエンザ（季節性インフルエンザと呼びます）とかわりません。今のところ中学生や高校生などの若い人が多くかかっていることが特徴です。



★ カゼとはどう違うのですか？

通常カゼといっているのはライノウイルスなどの感染症で、微熱、鼻水、咳などの症状です。インフルエンザでは熱が高く、だるさ、ふしぶしの痛み、頭痛などが強いこと、お年寄りや持病があると肺炎などで重症になることが違います。

★ 新型インフルエンザにかかると特に重くなるのはどんな人ですか？

重症になりやすい人は、妊婦、心臓・肺・腎臓などに持病のある人、免疫不全（がんやステロイドホルモン内服）の人、幼児とされています。季節性インフルエンザで重くなりやすいお年寄りには今のところ重症の方が少ないようです。米国疾病予防センター（CDC）の報告では、入院した人の数は0-4歳、5-24歳の順に高く、死亡した人は24-49歳が最も多かったとのことです。

★ 新型インフルエンザはどうやって診断されるのですか？

鼻の奥またはのどを綿棒でぬぐって簡易抗原検査を行います。現在（H21年夏時点）は季節性インフルエンザが流行していないので、A型が陽性なら新型と考えます。新型かどうかは県の衛生環境研究所で遺伝子検査をして決定します。

簡易抗原検査は、症状が出てから少なくとも6-12時間たないと確実に陽性にはなりません。また、新型インフルエンザで季節性と同じくらいの検出感度かどうかはまだはっきりしていません。



★ 新型インフルエンザの治療はどのようにするのですか？

ウイルスが増えるのを防ぐ薬には、飲み薬のタミフルと口から吸い込むリレンザの二種類があります。インフルエンザの症状が出てから48時間以内に始めれば、熱が早く下がる等の効果が期待されます。

★ 妊娠していますが、新型インフルエンザのときにタミフルを飲んでも大丈夫ですか？

抗インフルエンザ薬の胎児への安全性が確認されたわけではありませんが、妊婦の生命にかかわる可能性があるため、タミフルを内服したほうがよいとされています。家族内の発症などで予防投与を考える場合にはリレンザがよいとの意見もあります。



★ 新型インフルエンザかな、と思ったら、どこに行ったらいいのですか？

インフルエンザかなと思う症状があるのご心配ですが、検査で診断をつけるにはある程度時間が必要なこと、流行し始めれば医療機関に感染している人が集まっていて、かえって感染してしまう危険があることから、あわてて受診しない方が無難です。熱が続いて、可能性が高いときには、医療機関に連絡してから受診してください。

当院は、地域周産期医療センターで、かかると重くなりやすい妊婦さん、持病のある方、幼児が多く通院されています。重症でなければ、なるべく近くの医療機関を受診してください。

★ 普段から気をつけることはなんですか？

咳、くしゃみが出るときはマスクをしましょう。また、マスクがないときはハンカチなどで口・鼻をおおい、手を洗いましょう。（咳・呼吸器エチケット）

症状があって医療機関を受診される方、面会の方は必ずマスクをしましょう。マスクで自分がインフルエンザにかかるのを予防できるかどうかは明らかではありませんが、少なくとも他の人にうつすことは防げます。

マスクの正しいつけ方



1. 鼻の部分がぴったりするよう形を整える
2. プリーツを伸ばしてあごまで覆うようにする
3. 脇もすき間がないように整える

“咳エチケット”を守りましょう!

咳で1.5メートル、くしゃみで3メートル、ウイルスを含むしぶきは飛び散ります。

- 咳やくしゃみが出る時
- 咳やくしゃみが出そうになった時

まず、ティッシュで口と鼻を覆いましょう。

(使用したティッシュはゴミ箱に捨てましょう。)
人ごみではできるだけマスクもつけましょう。



その後は、よく手を洗いましょう。

手洗い場が近くにない時は、ウエットティッシュも代用できます。

風邪・インフルエンザなどを防ごう

- 咳が強い場合はマスクをおつけください。
- 医師や看護師もマスクをつけさせていただく場合があります。
- 感染予防の基本は、“手洗い”、“うがい”です。

桐生厚生総合病院 病院感染対策委員会・ICT



認定看護師の活躍

感染管理認定看護師

おおもり ゆうこ
大森 優子



感染管理認定看護師は県内に10名在籍しており、主な活動内容は、

1. 院内の感染症発生の把握
 2. 感染防止技術のマニュアルの作成と見直し
 3. 病院職員への指導、教育
- が挙げられます。

感染症は、どなたでも発症する可能性がありますが、入院中の患者さんは体力や免疫力が低下している場合が多く、健常者に比べ、より発症する可能性が高いといえます。

そのため、感染を広げないように早期に感染症を把握し、病院全体で適切な対策をとることで院内感染を防ぎ、感染症から患者や職員を守ることができます。

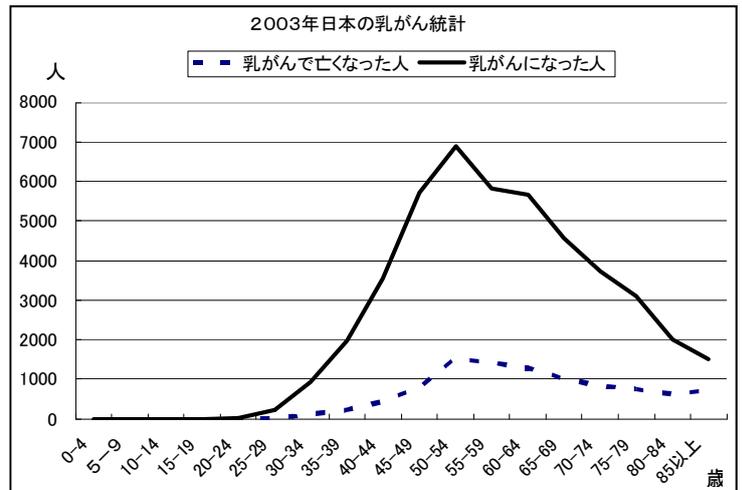
また、当院では各病棟から一人ずつ感染対策活動に従事する看護師の選出や、医師や検査部、薬剤部と一緒に感染対策活動を行う委員会を設立し、チームとして病院全体での感染対策活動に力を注いでいます。

乳腺外来を始めました

副院長 加藤 けんじ
かとう けんじ

♥ 乳がんについて

日本でがんによる死亡が全体の3分の1を占めています。その中で女性の乳がんは、かかる患者さんの率、死亡率ともに増加しつつあります。がんと言うと、ある程度の年齢になってからの病気と思われがちですが、乳がんは比較的若い年齢から発症し、40から50歳代で最も高率になります。(図1) その発生・増殖には性ホルモンであるエストロゲンが重要な働きをしています。乳がんは、がんが比較的小さいうちからリンパや血液の流れに乗って乳腺から離れた臓器に転移を起こすと考えられています。



(図1) 年齢別乳がんの発生率と死亡率

♥ 症状

乳がんは、5mmぐらいから1cmぐらいの大きさになると、自分で注意深く触るとわかるしこりになります。また乳がんが乳房の皮膚の近くに達すると、えくぼのようなくぼみができたり、皮膚に変化が現れたりします。乳がんの多くの方は自分でしこりを感じて来院されます。しかし、しこりがあるからといってすべてが乳がんであるというわけではありません。

♥ 診断検査

レントゲン検査(マンモグラフィー)が有用です。これは乳房を装置に挟んで^{はさ}圧迫しX線撮影する検査です。しこりや石灰化(いろいろな形をした白い点状の所見)が重要ながんの影で、触診では見つからないような小さながんが見つかることがあります。現在、桐生・みどり市では乳がん検診としてマンモグラフィー検診を採用し、40歳以上の方に検診を実施し、毎年約1000人の方が受検しています。

しこりや石灰化ががんであるかどうかは、針を刺して細胞や組織をとって診断します。触診では明らかなしこりを触れず、マンモグラフィーだけで異常が指摘されるような場合には、マンモグラフィーを撮影しながらこれを行うこともあります。がんであるかどうかや病変の広がりを診断するために、乳腺の超音波検査、MRI検査、CT検査なども有用です。

♥ 治療と成績

乳がんの診断がついた場合、しこりの大きさ、リンパ節転移の有無、遠隔転移の有無によって0期から4期までの5段階の臨床病期(ステージ)に分類され、この臨床病期に応じて治療法が変わってきます。手術、放射線、化学療法を病期にあわせて組み合わせで行います。また手術方法も、しこりの大きさや位置、がんが乳腺の中でどの程度広がっているか、転移の有無により異なります。

乳がんの生存率は比較的高く、早期に見つければ治ることが多いがんの一つです。また治療後5年以上経過しても再発することがあります。

♥ 乳腺外来

当院は日本乳癌学会の関連施設となっています。またマンモグラフィー検診精度管理中央委員会の認定施設で、マンモグラフィーの撮影は女性の認定技師が行い、マンモグラフィーの読影は6名の読影認定医師(外科・放射線科)が行っています。7月から乳腺外来を開設しました。乳腺のしこりなどで初めて受診される方、検診で精密検査が必要となった方は、下記の乳腺外来の受診をおすすめします。

お問い合わせは、外科外来(☎0277-44-7171内線320)にお尋ねください。

乳腺外来	火曜・木曜
	午後2時から4時





呼吸器外科診療部長

やまべ かつみ
山部 克己



呼吸器外科を紹介いたします。

平成 6 年から筑波大学病院呼吸器外科グループより当院へ派遣されるようになり、平成 9 年からは 2 名になり現在に至っております。当初は心臓・血管外科とともに、当院一般外科の一部として診療に当たっておりましたが独立、平成 19 年には諸事情により心臓・血管外科が筑波大学に引き上げたため、現在単科として昭和 58 年卒の山部、平成 11 年卒の小澤の 2 名で日常診療に当たっております。

診療内容は外科的胸部疾患全般です。特に肺がんの診断と集学的治療(一つの治療だけでなく、手術・放射線・化学療法などを組み合わせる)、胸腔鏡下手術などを中心に行っておりますが、本年からは群馬大学病院からの呼吸器内科医の派遣が停止したため、一部の慢性呼吸不全患者など内科的疾患も診療する機会が増加しております。

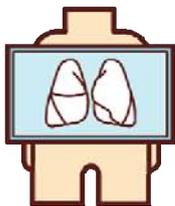
院内のチーム医療としては、緩和医療チーム(山部)、呼吸サポートチーム(小澤)の委員長を行っており、外科的治療だけでなく、呼吸管理、がんの緩和治療など院内全体の診療の質を上げるための努力も行っております。

日常の診療では、肺がんドック(胸部CT、喀痰細胞診)を早期から導入し、肺がんの早期発見・早期治療を目指してまいりました。また肺がんの治療では、手術だけでなく、患者さんの希望を十分に取り入れ、一人一人の患者さんに合った治療を行うように心がけてきました。

しかし最近では呼吸器内科医が不在になったことが大きな原因となり、手術症例数の低下、長期慢性呼吸不全患者の管理、院内検診胸部レントゲンフィルムの読影などの本来内科が行う仕事の増加、365 日 2 人で行う呼吸器疾患患者のオンコール(緊急呼出)体制の負担増加など厳しい条件が重なり、今後の科としての存続も厳しい状況になりつつあります。状況的にはかなり厳しい状態ですが、心臓内科、心臓外科、呼吸器内科に続き当科もなくなるようなことになれば、当院はがん拠点病院として、胸部疾患の診療が著しく手薄になる可能性があります。少しずつでも状況が改善できるように今後も可能な限り頑張る所存でありますので、よろしくお願い申し上げます。

呼吸器外科では次のような症状を扱っています

- ◆ 健康診断などで、レントゲン検査や胸部 CT で肺に異常を指摘された
- ◆ 胸痛や胸部の違和感
- ◆ 咳・痰が多い
- ◆ 血痰
- ◆ 呼吸困難
- ◆ 手に汗が多い



肺がんドックを受けましょう！
早期発見・早期治療で肺がんは治ります！

こんな方にお勧めします

- 喫煙している(喫煙歴がある)
- 血縁者にがんにかかった方がいる
- レントゲン検査で異常がなかった
- 肺がんが心配な方

(※外来診療担当医表はホームページ内で公開していますので省略いたしました。)